

# つがか工房

代表 景山 百合子さん

平成17年に創業し、あん餅やおはぎなどの人気商品を、「ブナの里」や「たたらば番地」で販売している「つがか工房」。代表の景山さんと、工房の皆さんにお話を伺いました。



景山さん(左)と藤原さん



つがか工房の生い立ちを聞かせてください。

現在、主に13人が加工に従事しています。最初は都加賀産のおいしいコマと、大豆を利用した加工品の製造をしようというだけで計画しました。

始めの頃は、豆腐やもちを作り、後に施設を改造して仕出し営業許可を取り、弁当などにも取り組んでいます。今製造しているのは、おからクッキーやおやきなど34品種です。

商品開発は、お茶話の中でアイデアが浮かび、早速作って食べてみてから、どうするか考えます。お土産にもらったお菓子など、おいしかったらみんなで作ってみることもあります。

作ったものは絶対においしいという自信はありますが、包装容器のデザインや売り方が素人なのでそこが悩みの種です。

おからシリーズの最初はドーナツでしたが、日持ちしないのでクッキーの開発をしました。一番人気があるのはあん餅ですが、賞味期限1日の商品なので、よく売れる販売店であれば置け

ません。ブナの里やたたらば番地に毎日出荷しています。営業は苦手なので、新たな販路開拓は進んでいません。

将来はどう考えていますか

若い人たちが加わって、念願のカフェをオープンしました。近所のお年寄りが楽しみに集まっています。皆さんにも気軽に立ち寄って都加賀を味わってほしいと思います。また、インターネットでの情報発信も始めました。

後継者となる若者が少ないので、今の間に技術の伝承をしておかなければ厳しいと思います。若い仲間が増えてほしい。

品種がたくさんあるので、原点に戻って看板商品を絞り込んでいこうと思います。

これからも都加賀の農産物を活かし、皆さんに愛される商品を作っていきたいと考えています。



お茶話の中から新商品が...

〈つがか工房ホームページ <http://tugaka.jp/>〉

## 今月の表紙写真



コーフルを食べながら、笑い声に包まれた作業場は、都加賀にある「つがか工房」。お土産のお菓子もスタッフには、商品サンプルの一つになるようです。次々とアイデアが生まれていくようですが、悩みは販売展開とのこと。30年前は「農家は売らんでもいい、売ってもらえばいい」という時代でしたが、今は販売企画がとても大切なので、知恵を絞って頑張ってください。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年の漢字一字は「災」に決まりました。2月の北陸を中心とした豪雪、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振(いぶり)東部地震、記録的暴風や高潮を観測した台風、その上に災害級の猛暑と、災害に始まり災害に終わった一年でした。

4月の島根県西部地震では、町内でも震度4を記録し、被害が発生しました。台風による被害もありました。また7月16日には、赤名観測所において観測史上最高の35.1℃を記録しました。

いつ起こるかかわからないが、必ず起こるのが災害であり、今後ますます災害に対する備えが必要となつてきます。

さて今年(いとし)は亥年。「古い制度や枠組を改変し、安定した繁栄・成長の礎を築くべき年になる」といわれています。

また、天皇陛下の生前退位が決まり、5月1日から新しい元号に変わることになりました。つまり「平成」の時代が終わります。

新しい年・時代の幕開けに、みんなで力を合わせ、安心して暮らせる社会の実現を目指しましょう。

議会広報編集委員会 景山登美男